



十勝三股の樹海

～カルデラが生んだ生物多様性～



大雪山国立公園の東部に位置する十勝三股は、約100万年前の大規模噴火によって生成したカルデラである。約30万年前には湖水地域となったが、その後消失し樹海が成立した。十勝三股は、エゾマツをはじめとする広大な森林が広がるとともに、永久凍土などの寒冷地帯、温泉などの地熱地帯が共存することで、多様な生物が生息し生物多様性を高めているという特徴がある。また、この豊富な森林資源を求めて、過去大規模な林業集落も形成され、昭和20～30年代の最盛期には約1500人と全国最大を誇り、運搬の旧国鉄士幌線（北海道遺産）とともに、地域の発展に貢献した。